

発刊にあたって

吉野川の明治以降に行われてきた治水事業は、デ・レーケの『吉野川検査復命書』が大きな影響を与えています。また、今日の吉野川の治水治山対策を考えるうえでも貴重な資料となつています。しかし、復命書は当時の公式文である文語文体で記述されており、一般の方々には読みにくいものとなっております。

ヨハネス・デ・レーケは、明治六年に御雇工師として招かれたオランダ人技師です。日本では、淀川や木曾川下流改修工事の計画などで有名ですが、明治十七年四月に九州の筑後川の視察を行い、そのあと六月には約三週間をかけて、吉野川流域を巡視しました。その間に吉野川の洪水にも実際に遭遇しています。

その時に著したものが『吉野川検査復命書』です。

この現代語訳版は、阿部滋会長以下九名の学識者で構成されている吉野川資料研究会（別掲）が約二年がかりで仕上げた労作を徳島工事事務所に提供していただき、わかりやすい読み物として発刊する運びとなったものです。

この現代語訳版を広く多くの方々に一読していただき、当時の治山治水対策の考え方を理解していただき、吉野川の治水に関心を持たれるきっかけとなれば幸いです。さらに、本書を通じて治水事業への理解を一層深めていただけることを期待しています。

平成八年七月

徳島工事事務所長 山口 修